

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

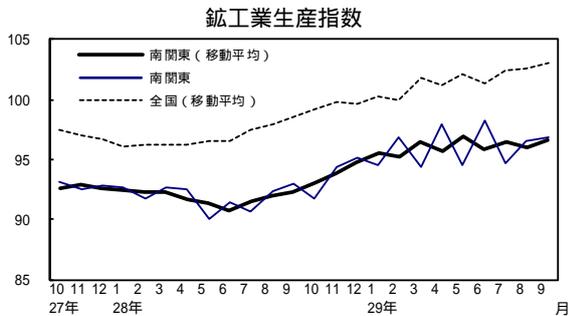
	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7 - 9月期には、「石油・石炭、化学、プラ製品」は、国内の需要減等によりガソリン等が減少した。「輸送機械」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、粗鋼等が減少したことにより減少した。「汎・生産・業務用機械」は、半導体製造装置等が増加したことにより増加した。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)



	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	29.1	2.3	2.5	4.6	1.9	0.4
輸送機械	17.6	0.8	0.8	6.8	9.2	2.0
電子デバ、電気・情報通信	14.7	0.0	1.1	0.9	1.5	2.5
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	10.8	1.1	0.3	0.1	0.9	0.8
汎・生産・業務用機械	9.3	6.5	0.9	4.6	3.0	1.3
鉱工業	100.0	1.7	0.9	3.6	1.9	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。

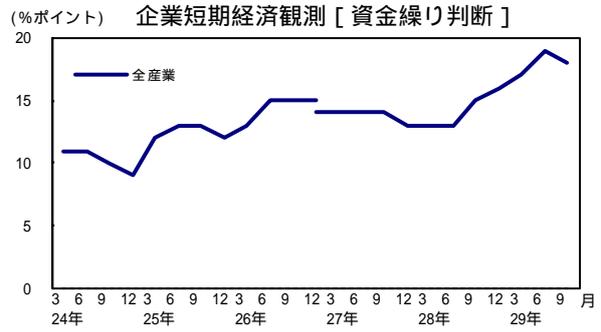
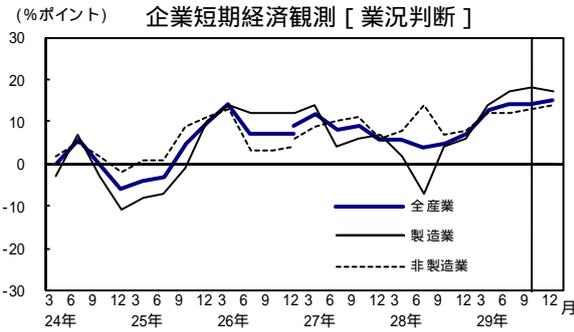
直近月は、2か月平均。

3. 南関東は内閣府にて算出。

(4) 南関東

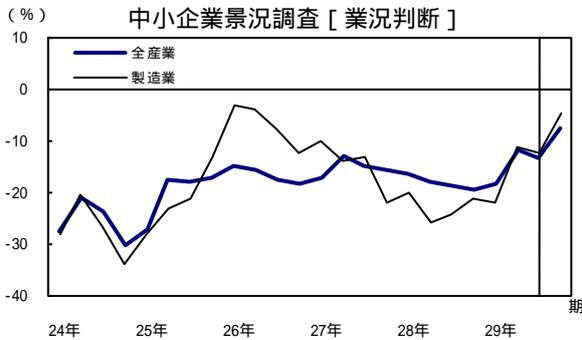
(2) 横浜支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。

(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。

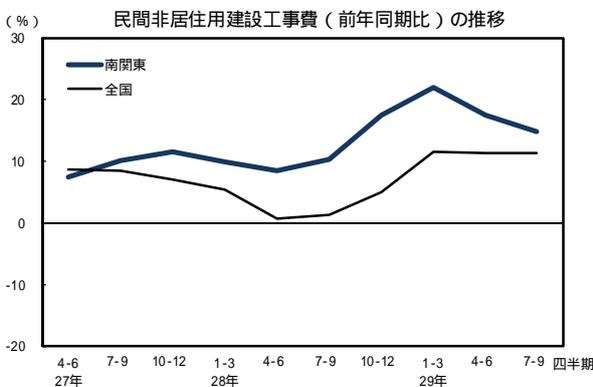


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「見積件数は多くなってきたものの、価格の折り合いがつかず、注文が取れないのが現状である (金属製品製造業)」等の回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	26.0	1.2 (4.5)
製造業	22.8	13.3 (6.5)
非製造業	30.5	20.9 (0.3)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。

日本銀行横浜支店管内。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.8%増、8月は同0.5%減、9月は同1.0%減となった。

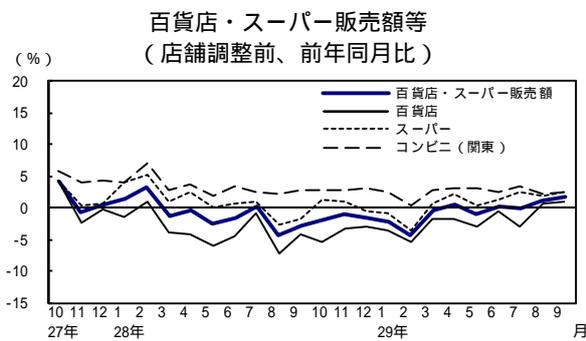
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、セールを前倒しにした反動減が見られ、前年を下回った。8月は、気温低下により秋物衣料に動きが見られ「衣料品」に持ち直しが見られたことや、宝飾品等の高額商材が引き続き好調だったこと等から、前年を上回った。9月は、引き続き化粧品や高額商品等の「その他の商品」が好調であり、また気温の低下に伴い秋物衣料も好調で前年を上回った。

スーパーは、7-9月期は、主力である飲食料品が引き続き好調であり、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「すでに12月の忘年会等の問い合わせが電話等で入っているが、例年に比べて安いコースに集中しているように見受けられる(一般レストラン)」等「悪くなっている」とする回答が増加した。



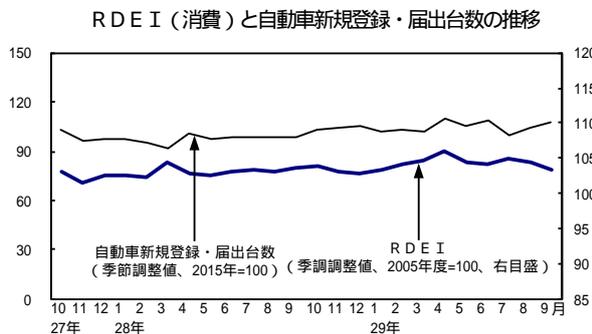
	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.6	0.8	0.5	1.0
百貨店・スーパー(*2)	0.9	0.0	1.2	1.8
百貨店(*2)	0.7	3.0	0.6	0.9
スーパー(*2)	2.2	2.4	1.7	2.4
コンビニ(*2)	2.5	3.3	2.0	2.3
乗用車(*3)	4.4	1.2	4.6	7.1
(季節調整値)(*3)	4.0	8.1	4.0	3.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパー及び百貨店、スーパーは関東経済産業局の東京圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)の値。
コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

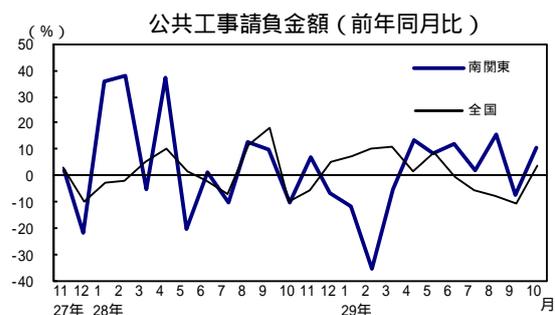
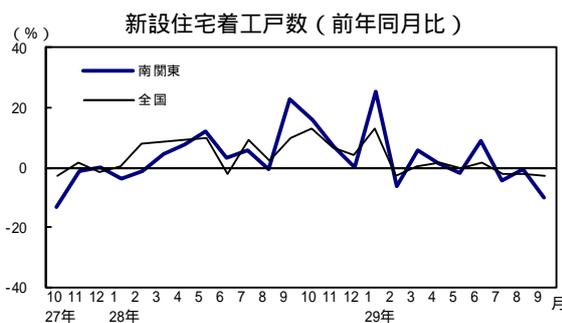
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を下回ったことから、全体では減少している。

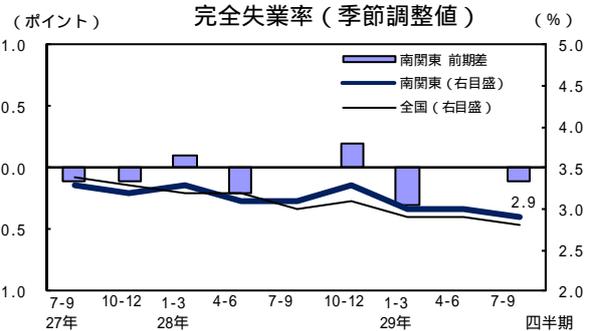
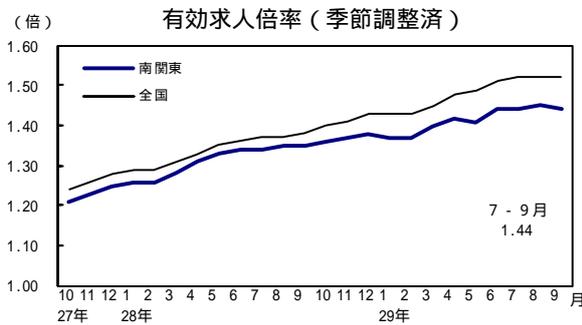
(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。



(4) 南関東

3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



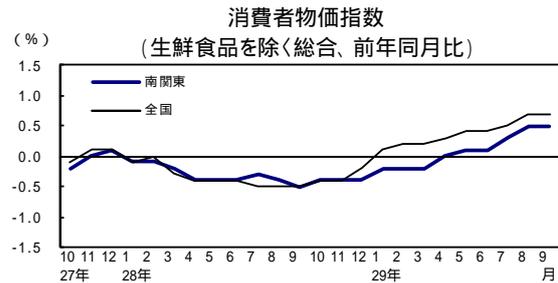
景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連 (現状)]

「3か月前と同様に、企業からの求人申込が入り続けている (人材派遣会社)」等の回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数は減少、負債総額は増加している。
 (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	730	721	751	679	238
(前年比)	5.6	4.0	10.9	4.4	0.0
負債総額	1,194	1,509	15,958	1,280	271
(前年比)	71.7	3.1	1,522.0	13.3	41.0



(備考) 南関東は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・10月は台風などの影響もあり、来客数がふだんに比べて伸び悩んでいる。以前に比べて、面白い機種が徐々に減ってきていることが若干マイナス材料になっている (パチンコ店)。

<先行き>

- ・東京オリンピックまでは忙しくなると言われているが、それを実感するようになり、受注した工事を施工するための業者手配に苦労するようになってきている (住宅販売会社)。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

